

お お ぞ ら

No.11 (128)

社会福祉法人 聖隷福祉事業団
総合病院 聖隷三方原病院
聖隷おおぞら療育センター

〒433-8558
静岡県浜松市北区三方原町3453
TEL 053-437-1467

発行責任者 荻野和功
編集者 横地健治

2008年9月20日

「おおぞら」の通所

所長 横地 健治

毎年数名の新規通所希望が出てきますので、今後の方向性を考えておかなければなりません。

認可を得た後は、知的障害者通園施設として増設しました。これは、かなり低額な補助金しか得られませんでした。最後

のものはまるで違ったものになっていくことをご理解ください。

重症心身障害児(者)の圧倒的多数は現に在宅で過ごしています。長い在宅生活を保証することが、望ましい重症心身障害福祉の形だと考えます。そのために、聖隷おおぞら療育センターの通所(「通園」と同じ意味です)は、全国的にみてもかなり特殊な形で規模拡大を続けてきました。現在、重症心身障害児(者)通園A型として一五名、生活介護事業所(障害者自立支援法の成人施設)として三五名の通所枠を持ち、それぞれを「もみの木」と「あさひ」の名称で呼んでいます。小児は前者、成人は後者の制度を使い、一日あたり合計五〇名の通所枠を運用しています。なお、養護学校(今は「特別支援学校」と言います)就学前の幼児通所は、制度上は、重症心身障害児(者)通園A型「もみの木」に拠っています。別、「ひかりの子」の呼称も使っています。なお、これとは別に、先日終わったばかりの養護学校通学児対象の夏期限定通所「夏期デイケア」があります。このように大きな通所枠を持っていますが、

現在は大規模となった通所ですが、その成り立ちはかなり特殊です。「ひかりの子」「もみの木」「夏期デイケア」はすべて施設の自主事業から始まっています。通うところを作ってほしいという家族の申し出により、施設と家族の協同事業として行ったということ。公的運営補助金はないので、主な運営資金を家族に負担してもらいました。当然、今よりかなり低額な運営資金となり、今よりは低サービスな通所しか提供できませんでした。それでも通う所がないよりはいいという形でスタートしました。そして、家族が求めるのは日中活動の場であり、長い活動時間を確保するため、送迎は家族が行うというのを基本としました。

福祉サービスでは、その供給量が先に決まっています。それに合わせて一人の利用量を分配する、あるいは、新規利用者を排除するのが普通のやり方です。これとは違い、ニーズがあれば、まずそれに応えるのを優先したことが規模拡大の原動力となりました。重症心身障害児(者)通園A型の

それが単純な行為でも、本人が興味を持って働きかけるものは良い遊びと考えます。その子の発達段階・障害程度に即して、その子にあった遊びを職員は提供しています。そして、次の新しい遊び方に広がるように課題を変えていきます。これぞ、その子の最前線の遊びだというのがいつも追求しています。その具体的内容は普通の保育園・幼稚園

たことが良かったか、悪かったのかは、思い込みを排して、本人の表出を正しく受け取らねばなりません。こうして、予想通りの結果が得られたかを検証し、課題を修正していくかねばなりません。通所者のご家族には、こうした結果をお知らせするようにしています。通所施設で、家庭とは違う楽しみ方をしていいることがわかったら、まずはそこでの生活の価値を認めてほしいと思います。

夏期デイケアを終えて

櫻井 智子

私が夏期デイケアを担当し、今年で四回目となります。夏期デイケアで一年ぶりに会う子、初めて利用する子など、今年もたくさんのお出でがありました。

四週間の期間で一人の利用回数が四〜八回です。一人の利用者に対して一人のアルバイトの方が担当し、受け入れに始まり、朝の会、午前・午後の活動、食事介助、降園までの時間を一緒に過ごします。第一週目は、お互い初対面ということもあり、利用者の子

供たちもバイトさんたちもそれぞれ、仲良くなって理解しあうところからのスタートです。バイトさんの中には初めて障害児と関わる方も少なくなく、どう関わっていいのか、どう介助していいのかとまどっている方もいます。しかし、一緒に遊んだり、食事などの介助等で一日を共に過ごしたりすることで、互いに呼吸が合い、安心感を得られるようになり、第二週にもなるとにぎやかな雰囲気が出ています。なので、職員の私よりもバイトさんの方が、利用者の笑顔を引き出せたり、いろいろな反応を笑見したり、ということが少なくあります。

今年、北京オリンピック開催ということで、バイトさんの提案で第三週は日替わりでボーリング大会、風船バレー大会、釣り大会などの競技を行い、とても盛り上がったのが印象的です。第三週ともなるとバイトさんたちもずいぶん慣れてくるので、個々で遊びを楽しんだり、介助もスムーズになったりしています。四〜八回という夏休みの一時を共に過ごすことで、また職員とは違う年の離れた友人のような関係の中で、確実に子供たちの中にはバイトさんへの信頼感が生まれ、第四週の特に最終日もとなると、お別れが互いに寂しくにぎやかな中にも少ししんみりとした雰囲気が感じられます。

夏期デイケア前に父兄に書いてもらう情報用紙に、「今年も夏期デイをとでも楽しみにしています。」という記載をしてくださる方も多く、夏期デイの必要性が感じられます。今年もハラハラドキドキに始まった夏期デイも、たくさんのお出でやにぎやかな時間の中で職員の私までもが楽しくあつという間の四週間で過ごさせてもらいました。協力してくださったアルバイトの方々、本当にありがとうございました。

(あすか 看護師)

大切にしていること

山田 明美

私が通所に来て五年が経ちます。五年間を振り返ると、通所の活動内容は大きく変化しました。三年前まではポブリ作業を中心とした活動内容で、製品を作り販売していたため、職員が手伝えることも多々ありました。しかし、現在は販売目的でないため、より利用者主体になってきていると思います。一対一で関わる中で、利用者本人から好きなこと、興味のあることを教えてもらうようにしています。例えば、

と結果を出す事ではなく、利用者が快であると感じることです。それを基本的に利用者が楽しかったり集中できたり、そのことに向かう気持ちや動作が見られた時、活動が本人にあっていいると感じ、うれしく思います。例えば光を見ることや音楽を聴くこと等は、一見受身に見える活動のようですが光を目で追ったり耳を傾けている様な表出が見られた場合、良い時間が過ごせたと考えます。

反応がいつもと違い、良い表出でなかった場合はマイナスの評価をするのではなく、どこに原因があるのかを考えます。不快な要素(例えば姿勢や排泄の有無)があるのか、体調面からくるものなのか、等。そうすることで利用者理解にも繋がると思います。

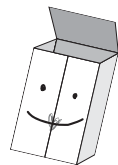
一人一人に寄り添い関わる中で相手を理解すること、在宅生活を支える父兄との連携を大切にし、利用している皆においてあさひで過ごす時間充実した時間であるよう支援していきたいと思ひます。

(あさひ 生活支援員)

活動の中で大切にしていることは、できるかできないか



私の宝箱



「Keep your smiling.

(笑顔を忘れなごう)」

朝比奈 由美子

日本での学生生活を終え、アメリカに留学をしていたことがある。当時六〇歳のオランダ人女性(ホストマザー)の家にホームステイしながら学校へ通っていたが、ホームステイ先で六〇歳過ぎのアメリカ人女性に出会った。彼女はホストマザーの大親友であり、毎週末家に遊びに来てはホストマザーとおしゃべりや買い物、時には野球観戦を楽しんでいた。私も時間が合えば、日本に興味を持つ彼女と文化の違いや趣味の話をし、語学の勉強をしながらとても多くの事を学ばせてもらった。留学を終えて日本に帰国するとき、彼女が私にかけてくれた言葉。「Keep your smiling.(笑顔を忘れなごう)」彼女が言うに、私はよく笑っているらしい。確かにそれまで日本では経験していなかった制限されることの少ない自由な時間。自由な時間は自分の気持ちに向くままに動けるのでとても楽しく充実しているが、その自分がつた行動の責任はとても重くのしかかる。きくと彼女のの前ではヘラヘラと笑って

いることが多かったのだと思うが、彼女に笑う事は良いことだと教えられた。"どんな時も笑うことで自分を高めることが出来る。そしてどんなに辛いことがあっても、笑うことで前を向ける"と。けれど彼女がこの言葉をかけてくれた時は、きちんと言葉の意味を理解していなかった。笑うことの心地よさは感じられるが、笑顔の先にあるものがみえていなかったのだと思う。今思えばその時の笑顔とは自分の感情表現であり、恥ずかしながら自分の事しか考えられずに生活していた。

その後月日が流れて多くの人に出会い、改めて彼女にもらった言葉を思い返すと、そこには言葉の意味の深さがあるように感じている。笑顔の力がとても大きいことを。私が笑顔でいられるのは、周りの人たちが笑顔を支えるからであり、皆の笑顔が私を支えてくれているのである。その笑顔に支えられて私が笑うと、周りの人もまた笑顔になる。アメリカで彼女との時間を過ごしている時は気がつかなかったが、私が笑って過ごす事が出来たのは彼女を始め私の周りの人たちが笑顔をくれていたからであらう。

私にとってかけがえのないもの、それはみんなの笑顔だ。笑顔で繋がっていられることがとても嬉しい。これからもずっと、Keep smiling.(笑顔を忘れなごう)

(だいち 生活支援員)

絵本の世界

おつきさまこんばんは

作：林 明子 福音館書店

中村 里枝子

この本は、子供が生まれたとき、読み聞かせのボランティアをしている知人から頂いた本の一冊です。

長女・長男にも読み聞かせましたが、この本が大好きだったのは次男です。次男はやんちゃでマイペースで甘えん坊。上の子達の後を追いかけて、少しもじつとしていません。そんな次男が、「おかあさん、読んで。」と持ってくるのが、この本でした。

食事の支度中であつても、洗濯の途中でも彼はおかまいなしです。怒り出しそうになる気持ちをグッと飲み込んで、その場

に座ります。次男を膝にのせ、呼吸を整え、ページをめくります。声のトーンを少し落とし、ゆっくり読みます。読み始めると、私の気持ちも落ち着きます。暗い画面の中、ほのかに光るやさしい顔のおつきさま。

「おや、やねのうえがあかるくなったよ。」

「おつきさままだ。」

「おつきさまこんばんは。」

(だいち 介護職)



おつきさまこんばんはの絵本

お知らせ/おおぞら

日時：11月2日(日)
13時~15時

場所：聖隷おおぞら療育センター正面外来
駐車場 および
北棟駐車場

内容：太鼓やコンサート
などのイベント、
模擬店、バザー、
近隣福祉施設による
フリーマーケット

皆様のお越しを
お待ちしております

あゆみ

(入所)

- 7.6 あすか1名、細江図書館へ行きました。
- 7.7 うらら2名、誕生日のお祝いに「楼蘭」にて、大好きな中華料理を食べました。食べ終わった後、満足そうに笑ったり歌ったりしていました。また、カインズホーム、サンストリート浜北にて、実際に手に取り、気に入ったものをそれぞれ購入しました。
- 7.8 すばる2名、科学館へ行ってきました。モニターに映し出される映像を食い入るように見つめ、様々な音が出るコーナーでも、耳に神経を集中させているかのようにじっと聞き入っていました。
- 7.8 だいち2名、ショッピングセンターへ出掛けました。売り場を楽しそうな表情で見つめていました。買い物したものを、大事そうに持って帰ってきました。
- 7.9 うらら3名、掛川花鳥園へ出掛けました。鳥を指さしよく見ていたり、自ら近付いていき、手を伸ばしたりしていました。
- 7.9 あすか1名、ショッピングセンターに行き、ゲームをして遊びました。
- 7.17 はるか2名、浜松駅に新幹線を見に行きました。新幹線が目の前を通過し、大きさや音の迫力を感じることができました。
- 7.17 はるか2名、天竜浜名湖鉄道三ヶ日駅～気賀駅間を電車に乗りました。電車の揺れや景色を楽しみました。
- 7.18 はるか2名、細江町にある「曳舟」にて、職員と一緒に昼食を味わいました。
- 8.10 うららなつまつり：キラキラルームやシャボン玉ルームを楽しんだ

- り、かき氷やスイカを食べたりしました。
- 8.19 あすか2名、ショッピングセンターで買い物をしました。
- 8.25 はるか2名、サンストリート浜北にて、店内を見てまわり、好きなものを見たり好きなものを購入したりしました。また、昼食はみんなで分け合ったりしながら楽しく食事をしました。
- 8.28 はるか2名、楽器博物館に行きました。様々な楽器の音を聞き楽しみました。楽器の演奏を聴きながら、落ち着いた時間を過ごしました。
- 8.29 だいち2名、バーベキューをしました。肉の焼けるところを、今か今かと待ち、おいしそうにほおばっていました。焼きトウモロコシもおいしく食べました。
- 8.31 すばる・あすか合同、ハンドベル演奏会をしました。職員によるハンドベルの生演奏でしたが、じっと見つめる人、耳を傾ける人、嬉しそうにはしゃぐ人、みんなそれぞれ違った楽しみ方をしているようでした。

こだま

エレベーターホールにベルシンフォニーを聴きに行きました。綺麗なベルの音に笑ったり耳を澄ませたりしました。

(通所部門)

あさひ・もみの木

- 7.15 浜名湖オルゴールミュージアム様のご好意により、あさひにてオルゴールコンサートが行われました。色々な音色を楽しんでもらえるようにと数台のオルゴールを準備しての生演奏となり、素敵な時間を利用者と共に過ごしました。小鳥の鳴き声のオルゴールが大人気でした。

- 8月 各グループで、楽しみ会を企画。盆踊り、ひえひえ感触、触ってみよう、何が釣れるかな等、個々に好きなコーナーに参加。違うグループの仲間や職員と関わる機会にもなり、思わずにっこり笑顔の利用者、入ってくる人の賑わいをよく見たり、それぞれの楽しみになったようです。

ひかりの子

8.8 夏のお楽しみ会

(全体)

- 7.10 防災会議
- 7.20 家族の会
- 7.28 夏期デイケア開始
- 7.30 愛知県立豊橋養護学校5名見学
- 8.1 浜松市教育委員会初任者研修会12名見学
- 8.4 浜松市教育委員会初任者研修会9名見学
- 8.6 短期入所実地指導
- 8.8 静岡県立天竜特別支援学校3名見学
- 8.12 帰省日
- 8.19 静岡県庁障害者支援局6名来所
- 8.20 帰園日
- 8.23 全国重症心身障害児・者通園施設協議会 中部地区研修会(おおぞらにて)
- 8.29 夏期デイケア終了



	7月	8月
ショートステイ	49人 (237日)	55人 (248日)
日中一時支援	19人 (64日)	14人 (67日)
夏期デイ利用者 (日中一時支援)	45人 (62日)	60人 (281日)
ボランティア	31人 (8グループ)	5人 (4グループ)
実 習	3人 (2グループ)	4人 (2グループ)



(K)

子供の頃、夏休みの最後になると聞こえてくるツクツクボウシの鳴き声が、とても憎らしく思えました。大人になっても、この時期はなぜか切ない気持ちにさせられます。思い出のせいなのでしょうか。私の思い出は、季節の音や香りによって思い起こされることが多いです。それぞれの季節で独特な音や香りがするのです。それらのしていた時期に経験した思い出が、それと共に思い起こされ、昔を懐かしむのです。ちょっとロマンチストだったりするのかな。この頃、世界中で異常気象がおきていることが報じられています。日本の四季も、いつまで昔ながらの音や香りをさせてくれるのでしょうか。憎かったツクツクボウシですが、時期が来たらちゃんと、私の思い出を呼び覚ましに出てきて欲しいと願っています。

編集後記